

中東における預言的な変化

アミール・ツアルファティ

- 2019年ミネソタ オリーブツリー ミニストリー -

<https://youtu.be/cmYIAR5YhQ>

今朝のメッセージのタイトルは、『中東における預言的な変化』です。私は、私たちがここ数日、さまざまな変化の上に、さらにもう一つの変化が加わるのを目撃していると思います。中東は、言うまでもなく、世界の出来事や活動の中心となっています。聖書の預言の95%は、世界の出来事に関して言えば、実際には中東とイスラエルの地に絞り込まれます。そこで起こることは何であれ、言うまでもなく、全世界に影響を及ぼしています。さて、預言的な（複数の）“変化”ということは、それが変わり得ることを意味しています。変わり得ないものもあります。変わることでできないものは、たとえば、人々に対する神の愛です。それは決して変わり得ません。それは決して変わりません。十字架上のイエスの最後の一息まで、ローマ人のみならず、ご自身の国民からもあらゆる仕打ちを受けられたのに、彼は彼ら愛するのを決して止めませんでした。イエスは「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです」とまで言われました。いずれにしても、イエスはソルトレーク・シティには戻ってこられません。フィリピンでもありません。主の足はエルサレムのオリーブ山の上に立ちます。主はご自分に属する者たちのもとに戻ってこられます。ヨハネ3章16節

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。（ヨハネ3章16節）

永遠のいのちは、キリストへの信仰に関連していることが分かります。しかしながら、全世界に対する神の愛は、普遍のものです。ローマ5章8節

しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。（ローマ5章8節）

もう一つ、決して変わることができないものは、神が、ご自分の計画をご自分の民に伝える方法です。それはもちろん、神の御言葉によります。他の何にもよりません。だれにせよ、主から何かを受ける人は、それが神の御言葉にないならば、それは主からのものではありません。以上です。神が皆さんに以前に伝えていなかったことで、現在、皆さんに「新しく」伝えようと望まれていることは、何一つありません。神がご自分の計画をご自分のために伝える方法、実際には、この全世界に伝える方法なのですが、ちゃんと聞くのは神の民ですから。それは彼の御言葉によります。聖書はこう述べています。ヘブル1章1節から2節。

神は、むかし先祖たちに、預言者たちを通して、多くの部分に分け、また、いろいろな方法で語られました（ヘブル1章1節）

そして、預言者たちはそれを預言者の書の中に書きました。それが預言者の書の中になければ、彼らが預言者であったのか、私には分かりません。あるいは、神が語られた先祖たちというのが、彼らのことなのかどうか分かりません。

この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました。神は、御子を万物の相続者とし、また御子によって世界を造られました。（ヘブル1章2節）

もう一つ、変わるこのできないこと。神は決して、ジョセフ・スミス・ジュニア（モルモン教設立者）のような人を「新たに」送られませんでした。また、終わりの日に「新しい使徒」を任命されてもいません。私はちょうど控え室でジャンに言ったばかりですが、イスラエルは、おそらく私の知るかぎり、他のどの国よりも新使徒宗教改革（NAR）の影響を受けています。イスラエルが「侵害された」と私が言うのは、政治的には100万人以上の人々が完全に盲目にされ、毒を盛られ、洗脳されています。霊的にさえ、イスラエルの教会は、新使徒宗教改革と、その四方八方に伸びる影響力に関して、ひどく病んでいます。それは、あなたが慣れなければならない変化の1つです。なぜなら、それらは聖書的だからです。聖書によると、イスラエルが攻撃を受けるほどに弱くなければならない一方で、言うまでもなく、世界的な背教も終わりの時の一要素となっています。残念ながら人々は神の御言葉を文字通りに、あるいは真剣に取りません。だから聖書の預言は無視されているのです。そして、それを熱心に教えたり、研究したりする人たちは狂人扱いにされます。ところで、私たちはそれに貢献してしまっています。空の小さな星のひとつひとつに反応して飛び跳ね始めるとき。しかし、私たちは神の御言葉から離れるべきではないことを覚えておかなければなりません。それは普遍の神です。もちろん、神と神の御言葉は決して変わることができません。そういうことで、決して変わるこのない神の愛についてお話をしました。

それだけではなく、神ご自身、また神の御言葉も変わることがありません。第1テモテ1章17節。

どうか、代々の王、すなわち、滅びることなく、目に見えない唯一の神に、誉れと栄えとが世々限りなくありますように。アーメン。（第1テモテ1章17節）

「世々の」「滅びることない」「目に見えない」それは同じ神です。詩篇102編25節から27節。

あなたははるか以前に地の基を据えられました。天も、あなたの御手のわざです。これらのものは滅びるでしょう。しかし、あなたはながらえます。すべてのものは衣のようにすり切れます。あなたが着物のようになり替えられると、それらは変わってしまいます。しかし、あなたは変わることがなく、あなたの年は尽きることがありません。（詩篇102編25節から27節）

イザヤ40章8節

草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことは永遠に立つ。（イザヤ40章8節）

民数記23章19節

神は人間ではなく、偽りを言うことがない。人の子ではなく、悔いることがない。神は言われたことを、なさらないだろうか。約束されたことを成し遂げられないだろうか。（民数記23章19節）

ヤコブ1章17節

すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。父には移り変わりや、移り行く影はありません。（ヤコブ1章17節）

ヘブル13章8節

イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。（ヘブル13章8節）

私たちは「新しい」主をあがめてはいません。詩篇90編2節。

山々が生まれる前から、あなたが地と世界とを生み出す前から、まことに、とこしえからとこしえまであなたは神です。（詩篇90編2節）

詩篇33編11節

主のはかりごとはとこしえに立ち、御心の計画は代々に至る。（詩篇33編11節）

詩篇119編89節

主よ。あなたのことばは、とこしえから、天において定まっています。（詩篇119編89節）

第2テモテ2章13節

私たちは真実でなくても、彼は常に真実である。彼にはご自身を否むことができないからである。

（第2テモテ2章13節）

今日、多くの教会は、神が変わられたことを示唆しています。少なくとも、イスラエルに関しては考えを変えられたと。まあ、彼らには悪い知らせがあります。神は変わりませんでした。良い知らせは、ありがたいことに、神が変わられなかったことです。そうでなければ、神はあなたについても考えを変えることができたからです。神の民としてイスラエルが選ばれていることは、変わることができないし、変わることはありません。月と星と太陽がそこにある限り。それらがもはやそこからなくなる時、イスラエルの民が神の民として神の前に立つことがなくなります。エレミヤ31章35節から36節。

主はこう仰せられる。主は太陽を与えて昼間の光とし、月と星を定めて夜の光とし、海をかき立てて波を騒がせる方、その名は万軍の主。『もし、これらの定めがわたしの前から取り去られるなら、一主の御告げ—イスラエルの子孫も、絶え、いつまでもわたしの前で、一つの民をなすことはできない。』

（エレミヤ31章35節から36節）

皆さんに質問があります。それは、いつ起こるのでしょうか？星、月、太陽がもはや光を与える必要がなくなるのは？神がすべてのものを新しくされるのは、いつのことでしょうか。その日は来ます。それは聖書に書かれているのであって、単なる仮説ではありません。この聖句は、実際、未来に関するもので、預言的でもあります。神がすべてを新しくされる時が来ます。そして、その新しいエルサレムには、ユダヤ人も異邦人もいません。新しいエルサレムでは、イスラエルは、もはや「神の民」ではありません。しかし、それまでは、彼らは神の民です。それが気に入らないなら、神に相談してください。マラキ（マラチ）3章6節。私の知るかぎり、聖書でただひとりのイタリア人。

主であるわたしは変わることがない。[彼の言うことに注目してください] ヤコブの子らよ。あなたがたは、滅ぼし尽くされない。（マラキ3章6節）

基本的に、神は預言者マラキにこう言われます。ところで、ヘブライ語では「マラヒ」です。神はマラキに言われます。

「聞きなさい。イスラエルがまだ滅ぼし尽くされていない唯一の理由は、わたしが神であり、わたしが変わることがないからだ。わたしが彼らを保護し、養い、愛し、彼らのために戦うと言ったのなら、そのことは実現するのだ。彼らはひどい間違いを犯したり、まずい選択をしたりするかもしれないし、それゆえに彼らはその報いを受けるだろう。しかし、わたしが世界とイスラエルの民のために持っている計画は変わることがない」

したがって、イスラエルは決して根絶やしにはできません。ムッラーたちや、その代理のヒズボラやそのほかのグループによっても、イスラエルは立ち続けます。そして、それは約束なのです。主がおられる限り。

そして、神は変わることができないし、変わることがないので、イスラエルは滅ぼし尽くされません。変わる者でさえも、変わることにない神のご計画に含まれているのです。すごいですよね？イスラエルに敵に対する神の裁きは、明らかに異なる国によって変わってきます。しかし、やはり…ゼカリヤ2章8節から9節。

主の栄光が、あなたがたを略奪した国々にわたしを遣わして後、万軍の主はこう仰せられる。『あなたがたに触れる者は、わたしのひとみに触れる者だ。見よ。わたしは、こぶしを彼らに振り上げる。彼らは自分に仕えた者たちのとりことなる。』と。このとき、あなたがたは、万軍の主が私を遣わされたことを知ろう。
(ゼカリヤ2章8節から9節)

また、ご自分の子どもたちに知らせておくという神のみこころも変わり得ません。神は、私たち全員が知っておくことを望まれます。神はご自分の子どもたちが何も知らずにいることは望まれません。神は、助言やカウンセリングを受けなければならない神ではありません。私たちは、醜い老婦人のいる暗い部屋に入っていくことで、神の忠告や助言を受けなければならない者ではありません。そこには水晶玉があって、彼女にお金を払わなければなりません。そして、彼女はどうかして、何か言わなければなりません。「ごめんなさい。私は水晶玉の後ろに座っている男の人を、まだ見たことがないんです。でも、昨今では、(男女の)両方を言わなければならないんでしょうね」イザヤ46章9節から10節。

遠い大昔の事を思い出せ。わたしが神である。ほかにはいない。わたしのような神はいない。[それから神はこう言われます]私は終わりの事を初めから告げ、まだなされていない事を昔から告げ、『わたしのはかりごとは成就し、わたしの望む事をすべて成し遂げる。』と言う。(イザヤ46章9節から10節)

敵がそれを止めようとしても、神は主導権を握っておられ、イスラエルを連れ戻し、それからメシアをイスラエルに送り返すというご計画を実行されます。詩篇第2編が最も適切に述べています。

なぜ国々は騒ぎ立ち、国民はむなしくつぶやくのか。地の王たちは立ち構え、治める者たちは相ともに集まり、主と、主に油注がれた者[ハ・マシアック]とに逆らう。
『さあ、彼らのかせを打ち砕き、彼らの綱を、解き捨てよう。』

天の御座に着いておられる方は笑う。主はその者どもをあざけられる。
ここに主は、怒りをもって彼らに告げ、燃える怒りで彼らを恐れおののかせる。

『しかし、わたしは、わたしの王を立てた。わたしの聖なる山、シオンに。』

『わたしは主の定めについて語ろう。主はわたしに言われた。「あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ。わたしに求めよ。わたしは国々をあなたへのゆずりとして与え、地をその果て果てまで、あなたの所有として与える。あなたは鉄の杖で彼らを打ち砕き、焼き物の器のように粉々にする。』

(詩篇2編1節から9節)

では、変わりうるものごとに目を向けてみましょう。それは、私たちがいま見ているものです。それがこのメッセージの核心です。私がお話ししているのは、世界の政治体制の動的な性質のことです。それは常に変化しています。驚くほどです。神はそれぞれの国を正義の尺度で測られます。ソドムや洪水の前のように、悪が横行していると、神はそれを止めるために行動をとられます。私たちは過去にそれを見たことがあります。私たちは最近にもそれを見ましたし、また、私たちは現在も、それを目にしています。神がイスラエルの民にカナンの地を奪わせ、だれひとりとして生かしておきたくなかった理由のひとつは、彼らの邪悪さのためでした。至る所、邪悪さで満ちていました。若い女の子たちは犯罪のためではなく、慣習のために強姦されていました。赤ん坊はモレク崇拜のしるしとして、生きたまま焼かれました。赤ん坊が生きたまま焼かれる間、彼らはとても大きな音で太鼓を演奏し、その音が赤ん坊の泣き声を上回りました。いいですか。それは悪魔的で、サタン的でした。申命記9章3節から5節。

きょう、知りなさい。あなたの神、主ご自身が、焼き尽くす火として、あなたの前に進まれ、主が彼らを根絶やしにされる。主があなたの前で彼らを征服される。あなたは、主が約束されたように、彼らをただちに追い払って、滅ぼすのだ。あなたの神、主が、あなたの前から彼らを追い出されたとき、あなたは心の中で、『私が正しいから、主が私にこの地を得させてくださったのだ。』と言ってはならない。これらの国々が悪いために、主はあなたの前から彼らを追い出そうとしておられるのだ。あなたが彼らの地を所有することのできるの、あなたが正しいからではなく、またあなたの心がまっすぐだからでもない。それは、これらの国々が悪いために、あなたの神、主が、あなたの前から彼らを追い出そうとしておられるのだ。また、主があなたの先祖、アブラハム、イサク、ヤコブになさった誓いを果たすためである（申命記9章3節から5節）

ですから、神は基本的に二つのことを同時に行われています。イスラエルとの約束を果たし、非常に邪悪な国々を裁いておられます。同時に、そして、横行する悪に対する倫理的正当性とは別に、神がまたそれぞれの国を量る尺度は、ご自身の民であるイスラエルに対しての彼らの行動です。私たちは主が戻ってこられるときのことを聖書がどう述べているかを知っています。すべての国民は、ヨシャパテの谷に連れられます。神はどのように彼らを裁かれますか？神は彼らのご自分の民、ご自分のゆずりの地、イスラエルにしたことで彼らを裁かれます。彼らは神の民を諸国の民の間に散らし、その地を自分たちの間で分け取りました。神はバビロニア人に、ご自分がいかに力強く、愛情深いかをなんどもなんども示されました。

では、ダニエル書に移ります。ジェフレス博士はダニエル書2章の話を書きましたが、これからダニエル書5章についてお話しします。今、新しい国が優位に立とうとしていて、神がダニエルを通して彼らに働きかけ、その新しい人々にご自身を現そうとしています。それは聖書中でも、最も驚くべき話の一つです。ダニエルがいるのは、王のところ。ダニエル5章18節から30節。

「王様。いと高き神は、あなたの父上ネブカデネザルに、国と偉大さと光栄と権威とをお与えになりました。神が彼に賜った偉大さによって、諸民、諸国、諸言語の者たちはことごとく、彼の前に震え、おののきました。彼は思いのままに人を殺し、思いのままに人を生かし、思いのままに人を高め、思いのままに人を低くしました。こうして、彼の心が高ぶり、彼の霊が強くなり、高慢にふるまったので、彼はその王座から退けられ、栄光を奪われました。そして、人の中から追い出され、心は獣と等しくなり、野るばととともに住み、牛のように草を食べ、からだは天の露にぬれて、ついに、いと高き神が人間の国を支配し、みこころにかなう者をその上にお立てになることを知るようになりました。その子であるベルシャツアル。あなたはこれらの事をすべて知っていながら、心を低くしませんでした。それどころか、天の主に向かって高ぶり、主の宮の器をあなたの前に持って来させて、あなたも貴人たちもあなたの妻もそばめたちも、それを使ってぶどう酒を飲みました。あなたは、見ることも、聞くことも、知ることもできない銀、金、青銅、鉄、木、石の神々を賛美しましたが、あなたの息と、あなたのすべての道をその手に握っておられる神をほめたたえませんでした。それから、手の指が神から送られ、この書き込みが書かれました。その書かれた文字はこうです。『メネ、メネ、テケル、ウ・パルシン。』そのことばの解き明かしはこうです。『メネ』とは、神があなたの治世を数えて終わらせられたということです。『テケル』とは、あなたがはかりで量られて、目方の足りないことがわかったということです。『パルシン』とは、あなたの国が分割され、メディアとペルシアとに与えられるということです。」（ダニエル5章18節から30節）

その当時の、全世界の王です。神は、ご自身を彼に示されて、言われました。

「自分を見てみなさい。あなたは自分が世界を支配していると思うのか？ひとつ言っておこう。それは違う。あなたはここに自分の妻たちや妻たちと座ってぶどう酒を飲んでいるが、わたしは今、あなたに告げよう。あなたはもうすぐ寿命を迎える。あなたの王国は分割されようとしている。」

詩篇37編1節から20節。

悪を行う者に対して腹を立てるな。不正を行う者に対してねたみを起こすな。
彼らは草のようにたちまちおれ、青草のように枯れるのだ。
主に信頼して善を行え。地に住み、誠実を養え。
主をおのれの喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。
あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。
主は、あなたの義を光のように、あなたのさばきを真昼のように輝かされる。

(詩篇37編1節から6節まで)

神は言われます。「わたしに信頼しなさい。そうすればわたしはあなたを高くしよう。他のものに信頼すれば、あなたは低くされる」詩篇37編は、これらのことを語っている素晴らしい詩篇です。でも皆さん、言っておきますが、私たちはここ数年、中東において、前例のない、とても驚くべき、一連の預言上重要な変化を目の当たりにしてきました。それは全世界に影響を与えています。これが、本質的に、私がお話ししたかったことです。世界にとって、アッシリアやバビロンなどの大帝国の崩壊は見抜きにくいことでしたが、私たちは覚えておかななくてはならないし、皆さんにも皆さんが聞いたその日のことを覚えておいてもらいたいです。今日でも、皆さんは、世界の主要国家の破滅に備えなければならないことを忘れてはなりません。私は先週、ロシア大統領、トルコ大統領、イラン大統領の写真を見たとき、こう考えていました。「これは、もはや存在しなくなる参加国の指導者たち3人の写真だ」私はツインタワーが破壊される前夜、ツインタワーに上っていました。そして私は、「何かがビルにぶつかったら、どうなるのですか？」と質問していたんです。もちろん、FBIが後で私に「なぜ、そんな質問をしたのか」と聞きたがりましたけど。本当に聞かれたんですよ。彼らはニューヨーク州の北部で、礼拝前の私を捕まえました。ところで、皆さんはFBIから尋問されたことがありますか？いいものじゃないですよ。でも、皆さんにお伝えしたいのですが、私はその週末でニューヨーク市を見たことがありませんでした。あの日まで、あれらの建物も見たことがありませんでした。そして、その日以来、二度と見ていません。さて、世界はその2つのビルがあることに慣れていましたが、私は慣れてもいませんでした。それらは私が慣れる前に消えてしまいました。しかしわたしが言いたいのは、2001年9月11日以前に、ニューヨークのスカイラインから、それらの二つの塔がなくなるなどと誰が信じたのでしょうか？しかも、それは、ただ二つの塔だけのことです。皆さんは国家がなくなるという事実慣れた方がいいですよ。

国家の話をする、今日のイランで何が起きているかを見てみましょう。古代のペルシャです。見てハッキリと分かるように、テヘランからはるかレバノンまで陸橋をかける構想があります。見てはっきりと分かる通り、テヘランからイランをずっと横切ってイラクに入り、はるばる「C」まで。「C」という文字が見えますか？Cが見えますか？この数週間、イスラエルはくり返してC地点を爆撃しました。シリアとイラクの国境にある、アル・ブカマルの町です。イラクはイランがそこに大規模な駐留軍を駐留することを許しました。その陸橋建設の途中の場所で、最終的にはレバノンまでつなげます。イスラエルの首相の席に着く道化役者が誰になるのか分かるまでのことですが、私たちはシリアの上空で自由に活動して、D地点とE地点を絶えず破壊していました。C地点は、ほんの2~3ヶ月前にリストに加えられたばかりです。もちろんF地点には、そこで何が起きているのかを私たちが世界に警告してきたものです。レバノンがそこでイランにいくつかのことをさせているのです。ほんの数週間前、私たちは数台のドローンを訪問に送りました。イランはちょうど巨大な機器を出荷した所でした。それは燃料を混ぜて、いわゆる精密誘導ミサイルのための燃料を準備するはずのものです。それはイランがレバノンのベッカーに建設している新工場のためのものでした。そして数時間、彼らはそれをバイルートで最も不利な地域に放置していました。あちらではヒズボラ地区と呼ばれる所です。イスラエルは地中海から船を送りました。軍のものでもない船でした。それ以上は知る必要はありません。二機のドローンが飛んでいって、その機器の上に着地し、爆発しました。それによって、我々はレバノンをそれらのロケットの製造国にするという彼らの夢をつぶしました。私たちは絶え間なく働いているのです。

さて皆さん、理解してください。イランはペルシャ帝国時代を復活させたくて、世界のイスラム教の主要派閥になりたいのです。彼らは最終的にはエルサレムだけではなく、メッカとメディナも狙っています。それ

が今日、サウジアラビアとイランの間で起こっていることの本質です。イランはサウジアラビアを攻撃するために南部のイエメンから軍事活動をしています。北はイラクから。そしてもちろん、イラン自体からも活動していることが分かったばかりです。つい先日、サウジアラビア政府の主要な石油会社アラムコが、19発の巡航ミサイルとドローンによって襲撃されました。それらはイラン領内のイランの基地から飛んで来たものです。彼らは基本的に、その州のサウジアラビアにおける一日あたりの石油産出量の二分の一を損ないました。

リビアはどうでしょうか？リビアは、聖書では「プテ」という名前で語られています。聖書はその国について告げていて、現在、そこで内戦が起こっています。そして、それは非常に多くのテロリストの活動の場となっています。皆さんに見ていただきたいのですが、今日のリビアはこんな感じです。それは非常に多くの異なる民族の間で、バラバラに分割されています。ISISが、その一部を支配しています。ハフタル将軍は軍の司令官ですが、ちなみにCIAが彼の昇格を助けました。しかし、彼はちょうど数ヶ月前に一線を越え、今は、実はロシアと協力しています。彼は実際、油田とガス田のほとんどを所有しています。それから、“United Nothing”（国連）が任命した政府です。そのように、さまざまな部分がたくさんあることが、はっきりと見て取れます。誰もが支配権を握りたがり、もちろん、誰もが優勢に立ちたがっています。そして、私たちはこの国がエゼキエル戦争に参加する国のうちのひとつになる、と聖書に書かれていることを知っています。

サウジアラビアはどうでしょうか？サウジアラビアは、聖書の中では「シェバとデダン」として言及されています。この国は、世界で最も神聖なイスラム教の聖地を支配しているという事実とは別に、かつては、最大の原油輸出国でした。…ドナルド・トランプ大統領が、アメリカの大統領になるまでは。今日、サウジアラビアは一日に1000万バレルを生産しています。アメリカは一日に1400万バレルを超過しようとしています。サウジアラビアに危機が起こるたびに、アメリカの市場にとって絶好の機会となります。そこでトランプは埋蔵量の一部を開放して、石油が流通するようになりました。原油は1バレル\$60に戻っています。なぜなら、アメリカの石油が手に入るからです。それは安くて、世界はそれを欲しています。サウジアラビアは、彼らにはもはや本当の同盟国が残っていないことを理解しています。しかし、その地域で実際にイランと戦っている唯一の国は、もちろんイスラエルです。したがって、サウジアラビアはこの頃、非常に良い友好国となり、この関係が公に浮上おおよげしました。しかし、それは彼らが話をする相手を信頼している限りです。お分かりですか？しかし皆さん、彼らは私たちのことが大好きなわけではありません。しかし敵の敵は、友です。そしてそれがまさに今、私たちが目にしているものです。

ロシアはどうでしょうか？ロシアは帝国としての地位を回復したいと切望しています。私が言っているのは、ソビエト連邦のことではありません。あれは、彼らには思い出したくない時代です。彼らは皇帝時代を思い出したいのです。さて、今年7月23日に、ワシントンDCのマリオット・マークスで起こった事件に目を向けたいと思います。「ターニングポイントUSA」の学生サミットでスピーチをしていたトランプは、ある“いたずら”的となりました。リベラル派のひとりが大統領の紋章を改ざんし、何かゴルフクラブ以外のものを握っている鷲から…。どういいたずらだったのか、見てください。彼らは13本の矢を取り除きました。彼らが大統領の背後に置いたものを見てください。片側にドルの札束、反対側にゴルフクラブの束。そして、彼らは双頭の鷲を使いました。それはもちろん、トランプがロシアのために働いているということを暗示するためです。なぜでしょうか。それは、双頭の鷲は、非常に長い間、続いてきたものだからです。それはずっと続いていました。紀元前13世紀にさかのぼると、ヒッタイト人はすでに双頭の鷲を石に刻んでいました。ビザンチン帝国（東ローマ帝国）は、それを1000年以上も使いました。ビザンチン帝国は、正式な紋章を持っていませんでしたが、双頭の鷲は、結束の象徴として皇帝の服や硬貨に見られました。彼らは、帝国がその保護の元で東と西の両方を統一したことを強調したかったのです。その鷲は、2つの頭を持っていますが、体は1つだけです。双頭の鷲と関わりのあるすべての国は、それをビザンチンから受け継ぎました。つまりセルビア、アルバニア、モンテネグロといった国々のことです。彼らの紋章は、すべて双頭の鷲です。ともあれ、彼らがトランプ大統領に“いたずら”をしたのは、どうにかして、彼がロシアに仕えているように見せたかったからです。これが面白いことに、人々は、もう隠そうとしません。プーチン大統領が、ただの

大統領ではなく、再び皇帝になるように、自分たちが望んでいることを。実際、世界中で、彼らは主要な報道機関において、彼を皇帝のように見せかけ始めました。こちらはエコノミスト誌で、これはタイム誌です。私だったら、これらの写真だけで、彼らに爆弾を落とすでしょう。私だったら、あちらであんな風な写真を見られたくありません。でも、私はこう考えているのです。皆さんがご存じかどうかは知りませんが、ロシアには双頭鷹グループと呼ばれる団体があります。これはロシアの君主制を回復することに専念している団体で、ロシアの紋章のシンボルにちなんで名づけられました。そして、その団体は繁栄しています。今年の地方支局の数は1.5倍近く増加し、50以上となりました。それは2016年にスタートしました。その団体によると、それはロシアの、ソビエト以前の過去について人々を啓発し、ロシアの伝統を復活させたいと考え、そして君主制はもちろん、皇帝時代の町や通りの名称も復活させようとしている。創設者のひとりであるマロフェーエフ氏は、「我々は非常に父権主義的な社会だ」と言い、ロシア人は歴史的ルーツに立ち返っていると付け加えます。ソ連の対外情報機関の元職員で、現在は「双頭鷹」の副議長を務めているレオニード・レシェトニコフ補佐官が言いました。彼は昨年、プーチン氏と君主制について話し合ったと言いました。そして彼は、「捨てられなかった」と。プーチンは、実際のところ、微笑んだと。ペルシャは、ペルシャ帝国を求めています。イランです。ロシアは皇帝を擁するロシア帝国を求めています。

もうひとつ、スーダンと呼ばれる国があります。聖書はそれをクシュと呼び、聖書の中には、クシュをエチオピアと翻訳するものもありますが、それは正しくありません。スーダンという国は、つい先日、クーデターが起きたばかりですが、スーダンが、ロシアとトルコの間で弄ばれていることを、私たちは知っています。トルコ大統領が、自分の利益があちらで守られているかを確認するために来たのが、はっきりと分かります。事実、スーダンは、サウジアラビアの真向かいに半島を持っています。そして、トルコはそれを購入しました。買ったのです。それで彼らは、自分たちがイスラム世界の真のスニ派リーダーであることをサウジアラビアに告げます。我々は、その湾の向こう側の、あなた方からほんの数マイルしか離れていない所にいる、と。

トルコです。右側のこの男は、オスマン帝国の復興を切望しています。ガーディアン紙がトルコ大統領のことを何と呼んだのか、見てください。「改革者から『新サルタン』へ。エルドアンのパピュリズムの進化」エルドアンは、基本的に、部屋が1000室を超える宮殿をアンカラに建てました。びっくりします。この男は今、土壇場に追い込まれています。トルコの財政状況が、とても悪いですから。彼は今、シリアの反乱軍を助けることによって、支配力を増してもいないし、確実な地歩を固めてもいません。彼らは彼を信頼しましたが、彼はそこにいません。でも、去年、彼が何と言ったかを見てほしいのです。「エルサレムは私の最優先事項です」そして、ちょうど2ヶ月前に、トルコのデイリー・ニュースに、何が書かれていたのを見てください。

「1世紀近く前に、トルコ政府は英国政府に対し、大英帝国の領地のどこにも、殊にエルサレムにはカリフ制国家の回復を許さないよう求めた。今日、オスマン帝国トルコのサルタンのもとにカリフ制を復活させるというのは、多くのトルコ人の耳には音楽のようだ。特にその王位がトルコ支配下の“エルサレム”で復活するというにでもなれば」

皆さん、私たちは彼の言動を見ています。しかし、彼の目はエルサレムにくぎ付けです。なぜなら、彼にしてみれば、「もし私がカリフ国家を復活させ、イスラム世界の支配者になりたいなら、明らかに、私にはメッカやメディナは奪えない。私の目標はエルサレムだ」それで、彼が今、剣を磨いていることの説明がつきまです。彼がそれを使うことができる瞬間のために。彼は待っています。ところで、選挙でネタニヤフの敗北に最初に手を叩いていた大統領がだれだか知っていますか？エルドアンです。ベンジャミン・ネタニヤフが政権を握っている限り、彼は何もできませんでした。今、彼は…、血の匂いを嗅いでいます。彼には見えています。誰がイスラエル首相の座についたとしても、（ネタニヤフほど）強くはない。皆さん、ヒズボラは喜びました。イランも喜んでいました。イルハン・オマールも喜んでいました。もし今日、ここに来ているなら、私はあなたが喜んでいてることを知っていますよ。（ここミネソタは）彼女の州です。

シリアは、エゼキエル書に登場する選手たちすべての運動場になっています。シリアはエゼキエル書には、言及もされていません。しかし、それらの選手たちは皆、シリアの中にいます。彼らが揃って席についてす

ることは…、その写真を見てもらいますが、彼らは揃って席に着きます。そこにはシリアの国旗さえ見当たりません。なぜなら、彼らはシリアのことなど、どうでも良いのです。彼らはそこに座って、シリアについて話し合いますが、シリアの国旗はそこにはありません。シリアの人々については何の関心もないのに、彼らがそこに座っているのは、シリアの残骸を削るためです。

ヨーロッパはどうでしょう。彼らは集団自殺を続けています。本当の自殺のことを言っているのではありません。それは霊的なものことで、経済的なものでもあります。絶望と、本物のリーダーへの切望。ヨーロッパ全土です。私はヨーロッパを巡回しています。彼らは破産し、混乱しています。もう、どうしていいかさえ分からない。私たちはヨーロッパの人たちが何と言っているかをこの教壇から一度ならず聞いたことがあります。神であろうと悪魔であろうと、彼らをその状態から引き出すことのできる人なら、誰でも。イギリスはヨーロッパから離れようとしていて、ヨーロッパの側に立って、それが崩壊するのを見ています。ヨーロッパに何が起こるのか、誰にも分かりません。

しかし、大きな変化がもう一つ起こっています。皆さん、私が今まで見てきた中で、最も大きな変化の1つです。ユダヤ人として生まれたイスラエル国民として。私は私の国の最初の世代として、エルサレムで、私の家族の国の地で生まれました。アメリカ政権内で起こったイスラエルに関する変化。米国を見てください。何が起こったか。イラン協定から撤退し、エルサレムをイスラエルの首都と認め、ゴラン高原をイスラエルの固有の領土として認識し、イスラエルがヨルダン川西岸地区の一部を併合するということさえ許可し、それを全く非難しないこと、「世紀の取引」。はっきりと言いますが、ネタニヤフが在任中である限り、世紀の取引には、イスラエル人はだれひとりとして、どこからも立ち退かされないことが含まれていました。きっと彼らはいま、自分たちの計画を書き直しているでしょう。神はご存じです。ネタニヤフが、イスラエル国民に伝えようとしたのは、そのことです。「世紀の取引が間近に迫っている。あなたがたは、誰に交渉してもらいたいのか」しかし、彼らは嘘にやられ、あまりにも盲目になっています。申命記32章15節にあるとおりです。

エシュルンは肥え太ったとき、足でけた。（申命記32章15節）

彼らはすごく甘やかされてしまったので、いま、蹴り始めています。私は心配しています。私が間違っていればいいのですが、残念ながら…。でも、私の間違いであつたらいいと思います。それが来年は皆さんに起こらないことを願っています。私は、奇蹟が起こって、この大統領があと4年間政権を握り続けることを願っています。イスラエルは、そのすべての隣国が憎み、毎日、破滅を狙っていた国でした。隣国のすべてです。ヨルダン、エジプト、レバノン、シリア。全部です。それは、そのうちの2つの国と友好関係にあります。そのうちの1つは、もう存在しません。もう1カ国は、彼らが私たちに対してできることがあまりないのを知っています。皆さん、イスラエルは、今や世界で8番目に強い国です。それは過去10年間のうちに起こりました。神はそれを達成するために、ベンジャミン・ネタニヤフを用いられました。「さあ、彼らの国を消し去って、イスラエルの名がもはや覚えられないようにしよう」（詩篇83編4節）と言われた時代から、私たちは、今ではエゼキエル38章の間際にいます。その章では、イスラエルは安全で不安のない場所、そして何よりも豊かであると描写されています。なぜなら、この戦争は、イスラエルの名前に関するものではないからです。この戦争は、政治問題に関するものではありません。この戦争は、経済的利益以外の何ものでもありません。1948年には、私たちはフムス（イスラエルの料理）とファラフェル（揚げ物）しか提供することができませんでした。今日、彼らが私たちから得られるものを見てください。こんなふうにもいいのでしょうか。今日、イスラエルで起こっていることは、神がベンジャミン・ネタニヤフを使って、イスラエルをそのレベルにまで引き上げられたのです。だれもがその友人になりたいと思い、誰もがイスラエルが持っている物に目を光らせています。その日は来ます。彼が、もはや首相でなくなれば、私たちが持っている物に目を光らせている者たちは、私たちが持っているものを奪う度胸を出します。私がいつも言っているのは…、と言っても（選挙結果が出た後の）この2日間ですが、「イスラエルが強ければ、ロシアはイスラエルの持っているものを欲しがり、イスラエルが弱ければ、ロシアはイスラエルの持っているものを奪おうとする」北からのイスラエルに向けての進軍は、すでに完了しています。

皆さん、ここ数年で世界で何が起こったのかを見てもらいたいと思います。地球を見てください。そして、エゼキエル38章が実際に起こっている様子を見てください。まず第1に、ロシア、トルコ、イランがシリアに来なければなりません。第1段階が完了しました。彼らは私たちの国境のすぐそばに駐留しています。そして、エゼキエルに登場する人たちは皆、最終的には勢力を統合し、襲撃して来なければなりません。それは、唯一、イスラエルが弱いときです。第1ステージ、第一段階は完了しました。皆さんは生きて目撃してきました。ユダヤ人が約束の地へ帰還するという預言だけではありません。皆さんは、私たちがいかに繁栄し、よくやっているかも目撃しています。今、皆さんはまた、敵の邪悪な計画における第一段階の実現も目撃しました。最終的には、イスラエルを侵略するという計画です。

パレスチナ人は、どうでしょうか？彼らが本当の所有者である、と誰もが言いたがります。私は、現アメリカ大統領のもとで起こったことで最も素晴らしいことの1つは、パレスチナに関する作り話が暴露されたことだと思います。私は皆さんに、以前に起こったことを思い出してもらいたいと思います。

「記録によると、19世紀と20世紀のユダヤ人入植と、その結果として生じた雇用機会が、当時のパレスチナにアラブ系移民の波を引き寄せた。アラブ人の人口は、パレスチナへのユダヤ人資本の流入や、ユダヤ人居住地の成長に関連するその他の要因などにより、著しく増加している」

これは誰が書いたのでしょうか？国連です。1937年でした。

「…1882年に設立されたユダヤ人入植地のリシオン・レジオンでは、そこに定住したユダヤ人の40家族が、1889年までに400以上のアラブ人家族を惹きつけた。他の多くのアラブの村も、同様に出現していた」
これを書いたのは、ジョン・ピーターズです。『タイム・インメモリアル』（『ユダヤ人は有史以来』）252ページから。イギリスのウィンストン・チャーチル首相は、1939年にこう言いました。

「迫害されるどころか、アラブ人はその国になだれ込んだ」

彼らはなだれ込んだのです。なだれ出たのではありません。彼らはそこにはいなかったのです。彼らはその国に入ってきたのです。皆さん、これは世界で最も大きな欺きのひとつです。そして、それは暴露されてきています。

「1967年の六日戦争（第3次中東戦争）以前、ヨルダンがヨルダン川西岸地区を支配し、エジプトがガザを支配していたとき、「パレスチナ人」側が、祖国での独立を望むことは一度も提案されたことがなかった。その理由は、「パレスチナ」国家が、まだ発明されていなかったからである。実際、イスラエル国家が誕生する前は、「パレスチナ人」という語は、ユダヤ人が自分たちとその組織を指すために使っていた。たとえば、今日の「エルサレムポスト」である「パレスチナポスト」、パレスチナ財団法人基金、パレスチナ航空、パレスチナ交響楽団、つまり現在のイスラエル・フィルハーモニー管弦楽団。アラブ人がパレスチナ人と呼ばれるのを我々が初めて耳にしたのは、エジプトのナーセル大統領がロシアのKGB（ソ連国家保安委員会）の助けを借りて、1964年に「パレスチナ解放機構」を設立したときだ。70年代になって始めて、新たに創出された「パレスチナ人」という語が殺人や暗殺を通して彼らの作り話を推進し始めた。そして、アラブ人は彼らの攻撃や行動を、あらゆる点から正当化した」

彼らはエルサレムを手にししましたか？—いいえ。帰還の権利は？—いいえ。国際連合パレスチナ難民救済事業機関は、大統領によって資金提供を断ち切られています。独立国家としての地位？—いいえ。繁栄？—いいえ。平和？—いいえ。将来？—いいえ。彼らが望んでいたものはすべて、「否」実際、私たちは大交換が起こるのを見ています。毎日、400人のパレスチナ人がガザからエジプト、トルコ、ヨーロッパへと移住しています。彼らはもはや、そこで起こっていることに関わりたくないのです。彼らが去っていくのと同時にイスラエルが繁栄し、比較的平和であるために、イスラエルへの移民は、いま急増しています。大交換。

世界は、まさに神が言われたとおりに、前進しています。預言上重要な変化は、前もって告げられています。神の計画がイスラエルを中心に展開していくように、信者のイスラエルに対する姿勢も試されるでしょう。皆さん、二本の平行線があります。私はこれまでずっと、いつも言ってきました。一方には、神の預言に沿った計画があります。それから反対側には、あなたの人生の決断があります。神の計画は決して変わりません。反キリストを止めることはできません。止めようとしても、彼は台頭してきます。しかし、あなたがキリストに属するかどうかの決定、あなたの今日の決断は、神が、世界に持っておられる計画に影響を与えたり、

それを狂わせたりはしません。しかし、それはあなたの居場所と、明日のあなたの役割に影響を与えます。中東は準備ができています。世界は、至る所に無法状態があり、準備ができてます。性別、家族、国籍に関する聖書の規約の崩壊。問題は、「あなたは準備ができていますか？ローマ13章。これで締めくくります。ローマ13章11節から14節。

あなたがたは、今がどのような時か知っているのですから、このように行いなさい。あなたがたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています。というのは、私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいているからです。夜はふけて、昼が近づきました。ですから、私たちは、やみのわざを打ち捨てて、光の武具を着けようではありませんか。遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねたみの生活ではなく、昼間らしい、正しい生き方をしようではありませんか。主イエス・キリストを着なさい。肉の欲のために心を用いてはいけません。（ローマ13章11節から14節）

お父様、あなたの御言葉を本当にありがとうございます。あなたの御言葉は真理であり、私たちはあなたの真理によって聖化されたいと願います。お父様、私たちは、これらの変化が起こっているのを見ることができ唯一の世代であることを感謝します。聖書の預言が最高潮に達していること、イスラエルの国民がその地に戻って、かつてないほど繁栄しているのを目にする特権を私たちに与えてくださったことを感謝します。それでも今、私たちは彼らが肥え太って、蹴るのさえも見えています。まもなく起ころうとしている、その国へのすべての敵による侵攻に備えて。敵は皆、すでに私たちの国境まで来ています。お父様、私たちは、これらの最後の日々に、あなたが私たちを用いてくださることを願います。眠っている世界、眠っている教会、眠っている家庭、眠っている家族を起こすために。私たちを起こしてくださるために。今は、眠りから目を覚ますべき時刻です。なぜなら、今、私たちの体の贖いは、私たちが最初に信じた時よりも近づいているからです。教会の携拳は、もうすぐそこまで来ています。私たちは、今日、あなたの御名をほめたたえます。

私たちは、これらのすべてのことを、イスラエルの聖なるお方の比類なき御名で祈ります。王の王、主の主、ユダ族の獅子、神の子羊、インマヌエル。私たちの救いであるヤシュア、イエスの御名によって、お祈りします。

そして、神の民はみな声をそろえて、

「アーメン」



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2019.12.04 (Wed)